

2025/08/17

説教題: 「口論と対立」

聖書箇所: ヤコブの手紙 4 章 1-10 節

聖書朗読: ヤコブ 3:13~4:10

3:13 あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行ないを、良い生き方によって示しなさい。14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。15 そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。16 ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行ないがあるからです。

17 しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。

4:1 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。3 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。4 貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。5 それとも、「神は、私たちのうちに住まわせた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。」という聖書のことが、無意味だと思うのですか。

6 しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」7 ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。9 あなたがたは、苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。

おはようございます、皆さん。今朝また皆さんと会えて嬉しいです。先週、私はここでヤコブの手紙 3 章についてのメッセージをしました。その章の主なテーマは、私たちが舌の使い方で直面する問題です。私たちの言葉は、多くのトラブルを引き起こす可能性があります。舌は体の一部として非常に小さな部分ですが、言葉から出るものは人々に対して大きな影響を与えるため、もし本当に否定的なことを言ったら、その言葉は私たちが話す人々の生活に深刻な悪影響を及ぼす可能性があります。私たちは舌を注意深く使い、言葉に気を付ける必要があります——これが先週のメッセージの主なポイントでした。そして、私たちの言葉から出るものは、私たちの心に何があるかを明らかにします。そのため、私たちは心に良い、敬虔な考えを詰め込む必要があり、否定的な悪意のある考えではなく、良い考えを心に持つべきです。私はあなた方に、私の大好きな聖句であるピリピ書 4 章 8 節を引用しました。この聖句は、私たちの心が真実で、誉があり、正しく、清いものに留まるべきだと教えています。また、ヤコブ書 3 章 17 節も指摘しました。この聖句は、神から来る知恵はまず純真で、次に平和、寛容、温順、そしてあわれみに満ちていると教えています。

本日の聖書朗読では、ヤコブ書 3 章 13 節から 18 節から始めました。3 章の後半部分は、同章の前半で議論された「舌の誤用」に関する話題を引き継ぎ、先ほどヤコブ書 3 章 17 節を引用した際に述べたように、善行と敬虔な知恵の道に従うよう促しています。その段落はまた、私たちの心から否定的なものを捨て去るよう促しています……そして、これはヤコブ 4 章で議論される問題の導入部となっています。4 章は本日の説教の主な焦点です。3 章の後半部分と 4 章の前半部分は、私たちが直面する特定の問題を説明しており、これらの節はそれらの問題に対する解決策を提供しています。

ヤコブ 3:14-15 を見ましょう – 「**14** しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってははいけません。真理に逆らって偽ることになります。**15** そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。」

苦い嫉妬と自己中心的な野心が心に満ちています。心にあるものが言葉に現れるのです。イエスはマタイ 12 章 34 節から 37 節でそう言われ、先週あなた方に読み上げました。私たちの嫉妬と自己中心的な野心は、神から来たものではありません。ヤコブ 3 章 15 節では、これらの「地に属し、肉に属し、悪霊に属すもの」は神に逆らう知恵だとされています。おそらくこの節から、私たちの生涯における三大敵は「この世、肉、悪魔」という有名な言葉が生まれたのでしょう。この世、肉、悪魔。この墮落した世界の腐敗した価値観は、世俗的な論理と自己中心的な野心で私たちを迷わせます。そして、肉の様々な誘惑は、過度の享楽、性、アルコール乱用などの罪に導きます。悪魔は、私たちを攻撃し、失望させ、破壊しようとする敵です。このテーマについては、ペテロの手紙 第一 5 章 8-9 節、エペソ人への手紙 6 章 1-17 節、マタイの福音書 4 章 1-11 節を参照してください。この世、肉、悪魔——これら三つの敵は、注意深く避け、従わないようにしなければならないものです。

先ほどお伝えしたように、ヤコブは私たちの問題点を指摘し、その解決策を教えてください。ヤコブ 3 章 17 節から 18 節で、彼はその解決策を教えてください。 – 「**17** しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。**18** 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。」私たちは、上から来る知恵で心と魂を満たさなければなりません。——すなわち、清く、平和を愛し、寛容で、温順であり、あわれみに満ち、良い実を結ぶ、揺るぎなく、偽りない知恵です。私たちは、心と生活に平和を蒔かなければならなりません。そうすれば、義と平和に満ちた人生を送ることができるからです。これが、ヤコブが 3 章の最後に私たちに与える解決策です。

先週のメッセージを、古代の教会から伝わる知恵の言葉で締めくくりました。ここに古いスローガンがあります：私たちは平和と悔い改めの生活を送るべきです。平和と悔い改めの生活を送るべきです。第一に、神との平和と、人間同士との平和です。第二に、神から

私たちを隔てるもの、そして人間同士を隔てるものからの悔い改めです。平和と悔い改めの生活を送るようにしましょう。

ヤコブの手紙の4章で、ヤコブは再び大きな問題を述べ、その解決策を提示しています。ヤコブは、この章を、平和と悔い改めの真逆のような言葉で始めています。

ヤコブ 4:1-4 – 「1 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。3 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。4 貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。」

世と友となる者は、神と敵対する者となります。これは、先ほど私が述べた、世が、私たちキリスト教徒の持つ三つの敵の一つであると言ったことと重なります。世の知恵とその腐敗した習慣に従うことは、世と友となることであり、ヤコブはこれを、夫に不忠実な姦淫の女に例えています。私たちがキリスト教徒として、キリストの道ではなく世の道に従う時、私たちは夫であるイエス・キリストに不忠実となるのです。新約聖書では、教会はキリストの花嫁として描かれることがあります。夫々の教会員は、キリストの花嫁です。

ヤコブ 4:1 – 「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。」ヤコブは、教会員の間でしばしば争いや対立が生じているという悲しい事実を私たちに指摘しています。ヤコブは3章でもこの点を触れており、ヤコブ 3章 10節の後半で次のようにコメントしています。 「...私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません。」

これらの争いや対立の源は何でしょうか？それは、あなたの心の中で戦いを繰り広げる欲望です。もう一度、ここには心の問題があります。ヤコブ書 1章の説教で、私たちの中に存在する欲望について話したのを覚えておられますか？ヤコブ 1:14-15 – 「14 人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。15 欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。」

ヤコブの手紙 4章 1節では、私たちの快樂や欲望が、教会内の関係に不和をもたらす原因となっています。ヤコブは続けます。4 : 2-3 – 「2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。3 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。」

これは非常に厳しい表現です。殺人？確かに、教会史において、キリスト教のグループが互いに戦い、互いを殺し合った事例は存在します。個人レベルでもそのような事例はあります。より深刻ではないものの、同様に破壊的なものとして、教会内のキリスト教徒同士の様々ないさかいや競争があります。「...私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません。」

この2節を読むと、私たちが必要としているものや望んでいるものを単純に求めることができるという提案が示されています。なぜ、互いに冷静に話し合って違いを解決しないのでしょうか？しかし、私たちはその道を選ばず、求めず、冷静なコミュニケーションの糸口を築こうとせず、代わりに破壊的な方法で反応してしまうことが多すぎます。3節では、たとえ要求しても、たとえコミュニケーションを試みても、上手く行きません。それは、しばしば動機が間違っているからです。...自己中心的な動機なのです。長期的に見ても、そのようなコミュニケーションも上手くいきません。対立は続きます。なぜなら、私たちの動機と方法が正しいものではないからです。

謙虚になりましょう。平和的な解決策を模索しましょう。私は、私たちがお互いの信者同士としてどう接すべきかについて、いくつかの重要な聖句を思い出します。

エペソ 4:31-32 – 「**31** 無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。**32** お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」

関係に緊張をもたらすような嫌なものをすべて捨て去りなさい：無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしり

互いに親切にし、優しい心で接し、互いに赦し合いなさい。

思い出してください：キリストにある神もあなたがたを赦してくださったのです。あなたも兄弟や姉妹と同じように罪人です。謙虚になりなさい。互いに赦し合いなさい——早ければ早い方がいいです。

エペソ 4:29 – 「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」

エペソ 4:27 – 「悪魔に機会を与えないようにしなさい。」

私たちは、愛と赦しの原則に従って生きないとき、そして互いに対して憎しみや怒りのような否定的な感情を抱き続けるとき、悪魔に私たちの関係を乱す機会を与えてしまいます。否定的な感情を捨て去りなさい！兄弟姉妹を赦しなさい。互いに愛し合いなさい。決して忘れないでください。あなたには欠点がありますが、神はあなたがたを赦してくださっています。

コロサイ 3:12-15 – 「**12** それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。**13** 互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがた

を赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。」

キリストの平和があなたの心で支配するようにしましょう。覚えておいてください：人間関係における調和を実現するために成功を収めたいのであれば、あなたの心の問題と向き合う必要があります。

ヤコブ書 4 章を読み進めましょう。ヤコブは、世俗的な習慣や内面の欲望が私たちの関係に混乱をもたらすことを許したことに厳しく非難した後、5 節で次のように言っています。「それとも、聖書のことばが、無意味だと思うのですか。」『神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。』と？」神は嫉妬深い神です。その民に対して嫉妬深いのです。旧約聖書でこのことを記述している箇所には、出エジプト記 20:5 と 34:14、およびゼカリヤ書 8:2 があります。新約聖書の教会はキリストの花嫁であり、したがって神は確かにその花嫁を守ろうと嫉妬し、私たちが不忠実で姦淫の女のように振る舞うとき、悲しむのです。ヤコブ 4:4 で説明されているように。

ヤコブは 6 節で次のように続けます。「しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」ヤコブは箴言 3:34 を引用しており、詩篇 138:6 にも言及している可能性があります。神は、私たちが直面するいかなる誘惑や、従おうとする世の知恵よりも、より大きな恵みを与えてくださいました。しかし、それを受けるためには謙遜でなければならなりません。高慢な態度を抱えているなら、主から何ものも受けられるとは思わないことです。マタイ 5:5 – 「柔和な者は幸いです。その人は地を相続するからです。」 “

1 ペテロ 5:5b – 「…みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。」私たちは神の前で謙虚になるだけでなく、互いに対して、兄弟姉妹に対して謙虚であるべきです。これによって、私たちの間の口論や対立は確実に大幅に減るでしょう。

今日のメッセージの冒頭で、私は 3 章でヤコブが大きな問題を描き、その解決策を提示していると述べました。4 章では、彼は再び大きな問題——私たちの心に存在する自己中心的な欲望から生じる争いや対立——を描き、現在、7 節から 10 節でその解決策にたどり着きます。これらの節では、極めて重要な勧告が連続して記されています。

ヤコブ 4:7-10 を読みましょう – 「7 ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。9 あなたがたは、苦しみなさい。悲しみなさい。泣き

なさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。」

これらの勧告を繰り返し、一つずつ列挙します：

神に**従いなさい**。

悪魔に**立ち向かいなさい**。そうすれば、悪魔はあなたから逃げ去ります。

神に**近づきなさい**。そうすれば、神もあなたがたに近づいてくださいます。

罪ある人たち、**手を洗いきよめなさい**。

二心のある人たち、心を**清くしなさい**。

苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。

主の御前で**へりくだりなさい**。そうすれば、主はあなたを高くしてくださいます。

従え……悪魔に抵抗せよ……神に近づけ……手を洗い清めよ……心を清めよ……悲しんで嘆き、泣け……へりくだれ。

これは、私がよく立ち止まって考え、瞑想する聖書の箇所です。聖書を読む際に、この箇所に出会うたびに、しばらく留まり、その箇所を瞑想し、「これらの原則を実践する上で、私はどうなっているだろうか」と自問自答します。これが、ローマ人への手紙 5 章 4 節から 6 節、ペテロの手紙 第二 1 章 5 節から 8 節、そしてこのヤコブの手紙 4 章 7 節から 10 節を読む際、私が実践していることです。これらの勧告を見ていきましょう。皆さんに、これらの原則を実践する上で、自分はどうなっているか自問自答していただきたいのです。

① ここでの最初の勧告は「神に従いなさい」です。これは最も根本的な原則です：私たちが創造された神への服従です。神学者ダグラス・ムーは次のように述べています。「神に服従するとは、彼の支配下に入ることを意味し、したがって、すべてのことに従うことを誓うことです。」 その後のすべての奨励は、この最初の勧めから派生しています。

② 「悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたから逃げ去ります。」 これは非常にわかりやすいです：ただサタンに抵抗するだけで…そうすれば彼はあなたから逃げていくでしょう。サタンは私たちの大敵ですが、私たちの神は全知全能であり、私たちの中には聖霊が宿っており、世界、肉欲、そして悪魔を克服するための力を与えてくれます。そのことを忘れないようにしましょう。あらゆる誘惑に「ノー」と言うための少しの自制心があれば、神の助けを借りてそれらを克服することができます。

私のお気に入りの聖句の一つである 1 コリント 10:13 – 「あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。誘惑は強く感じられるかもしれませんが、神はさらに強く、常に逃れる道を提供してくださいます。その恵みを活用しましょう。悪魔に抵抗すれば、彼はあなたから逃げていきます。

次のポイントに移りましょう：

③ 「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。」神に近づくことは、どれほど重要でしょうか！毎日、何度も神に近づきましょう。罪に誘惑される時、私たちは神から遠ざかりたがるものです——エデンの園で禁断の果実を食べた後、アダムとエバがそうしたように。しかし、神に近づく努力をすれば、誘惑は魅力を失い、その力を失います。神に近づいてください。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださると約束されています。

④ 「罪ある人たち。手を洗い清めなさい。」私たちは皆、まだ罪を犯します。私たちは皆、毎日、自分の過ちと罪から手を清めなければなりません。私に影響を与えた聖書の箇所の一つは、ローマ人への手紙 6 章で、罪を捨て去るよう戒める内容が含まれています。**6:12-13** を読みましょう – 「**12** ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。**13** また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。」

私たちの手と足は、罪の道具ではなく、正義の道具であるべきです。罪を犯したときは、すぐにそれを告白し、そこから離れ、主の赦しを求めなければなりません。**1 ヨハネ 1:9** – 「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

⑤ 「二心の人たち。心を清くしなさい。」ヤコブ 1 章 6～8 節で、ヤコブは私たちに、主への願いを捧げる際には、少しも疑わない信仰を持って行わなければならないと教えています。もし、その信仰をもって行わないなら、私たちは二心であり、主から何ものも受け取ることはできません。ここ 4 章では、ヤコブは私たちに、心を清めるよう促しています。先週のメッセージと今日のメッセージで、私は何度皆さん方に、否定的な思いよりむしろ、聖い思いに焦点を当てた清い心を持つことの重要性を指摘したのでしょうか？心を清めてください。マタイ 5 章 8 節「心のきよい者は幸いです。その人は神を見るからです。」

⑥「苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。」「あなたの笑いを悲しみに、あなたの喜びを暗さに変えよ。」これは少し暗く聞こえるかもしれませんが、私たちは神を真剣に受け止め、キリスト教の生活を真剣に歩む必要があります、人生を軽率に扱ったり、無責任に過ごしたりしてはならないことを覚えておく必要があります。この「悲しむべき」という呼びかけは、旧約聖書の多くの預言者が宣言した内容と一致しています。例えばヨエル 2:12 で言っています – 「しかし、今、――主の御告げ。――心を尽くし、断食と、涙と、嘆きとをもって、わたしに立ち返れ。」涙と、嘆きとをもって、あなたの神に立ち返れりなさい。

⑦「主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。」以下は、最後の勧告と最後の約束です。私たちは謙虚でなければなりません。全能の神の前で、私たちはその被造物として謙虚でなければなりません。私たちはキリスト教の生活を営む際に、自分の力や知恵ではなく、神の力に頼らなければなりません。この道に従うなら、神は私たちを高くしてくださいます。神があなたがたを高めてくださいます――自分自身を高めようとしてはいけません。なぜなら、そうすればあなたは一時的で地上に縛られた立場に留まるだけだからです。あなた自身をへりくだらせなさい。そして主があなたを高くしてくださるようにならしましょう。マタイ 23:11-12 でイエスは、このように言われます – 「11 あなたがたのうち一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりません。12 だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。」

ヤコブ 4:7-10 をもう一度読みましょう – 「7 ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。9 あなたがたは、苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。」

結び

このメッセージの最後の数分間を、全く異なる話題に充てたいと思います。これまで何度も、著名で影響力のある牧師ジョン・マッカーサーの名前を私が言及してきたことをご存知でしょう。先日、彼が先月 86 歳で逝去されたことを知りました。彼は私にとって大きな影響を与えた人物であり、この神の人物への個人的な追悼の言葉を数分間述べたいと思います。

ジョン・マッカーサーはロサンゼルス・グレイス・コミュニティ・チャーチの牧師でした。私の双子の兄と私は、1977 年の大学 1 年次にその教会を紹介されました。マッカーサーはその教会での牧会活動が始まってからまだ 10 年目の時期でしたが、すでに著名で影響力のある聖書教師として知られていました。教会に初めて訪れた際、彼がコリント人への

手紙 第一の全章を節ごとに解説していることを知り、驚きました。彼はその書物に2年間取り組んでいましたが、まだ3分の2しか進んでいませんでした。日曜日の説教でのそのような詳細な聖書解説は、印象的で深く啓発的なものでした。マッカーサーは聖書の全巻を説教する最初の説教者ではありませんでしたが、その教会が私にとってそのような説教方法について初めて聞いた場所でした。

ある人が私の兄にジョン・マッカーサーの説教のカセットテープの箱をくれました——約200本です。1978年の夏休みの間、父から家族の家全体を塗装する任務を兄と私は任されました。兄と私はカセットテーププレーヤーを設置し、家の塗装作業中にそれらのテープをすべて聴きました。各テープを少なくとも2回ずつ聴きました。その夏、私たちは比類ない神学教育を受けました。そして、私は家事や朝の運動など、様々な作業をしながらキリスト教のメッセージを聴くという生涯の習慣を身につけました。妻はこの習慣をよく知っています—私は今でもキリスト教のメッセージを聴いており、彼女はよくそばで一緒に聴いています。1980年代半ばにロサンゼルスを離れて以来、ジョン・マッカーサーのメッセージは聴いていませんが、代わりに他の優れた教師のメッセージを聴いています。

マッカーサーは、私の聖書研究の基盤となる重要な教訓を教えてくださいました。彼は私に聖書を真剣に受け止め、それに従って生きるよう教えてくださいました。また、特定の聖書書物が書かれた歴史的・文化的背景を常に意識する必要があることも教えてくださいました。文脈を理解することは、テキストの正しい意味を把握するために非常に重要です。また、彼は私に、キリスト教徒が教えるすべての教義と、教会生活において行うすべての実践は、聖書に根ざしていなければならないと教えてくださいました。つまり、すべての教義と実践を擁護するために、聖書の特定の章と節を指摘できる必要があります。

私が学んだもう一つのこと、私にとって非常に重要なものでした。マッカーサーは、聖書を自分自身に取り入れる素晴らしい方法について説明しています。彼は、30日間毎日同じ聖書の箇所を読むことを推奨しています——読むのに約20分または30分かかかるような箇所です。例えば、30日間毎日ヨハネ手紙第一の全章を読むような方法です。私はこの方法をよく活用し、ローマ人への手紙を読む際には、その本をそれぞれ約20分間の読み物に分けました。この方法を使えば、聖書を本当に深く理解することができるのです！20代から30代にかけて、この方法を繰り返し実践しました。新約聖書の書物はこの方法で読み、旧約聖書のいくつかの書物も同様に行いました。強くおすすめします。これは私にとって本当に特別で人生を変える実践の一つであり、ジョン・マッカーサーから学んだものです。

来週の日曜日朝、1週間後の日曜日に、ジョン・マッカーサーの追悼式がライブストリームで放送されます。私はその式典を観る予定です。式典はカリフォルニア時間土曜日の午後、日本時間では日曜日の午前2時30分に開催されます。追悼式典をご覧になりたい方は、説教の脚本にライブストリームのアドレスを掲載しますので、そちらでご確認いただけます (<https://www.gracechurch.org/live>)。では、これが今日の私の個人的な追悼のメッセージの終わりです。

今日は、今日のメッセージのいくつかの原則に遡る考えで説教を締めくくります。これは、以前にも皆さんと共有した考えでもあります。聖書研究を教えたり説教を述べたりするたびに、私たちの教えの目的が何かを思い出します。正しい教理に立っていることは極めて重要ですが、目的は聖書の知識でああなたの心を満たすことではありません。私はよくテモテへの手紙第一 1 章 5 節を思い出します。「この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。」目標は、きよい心から生まれる愛です。純粋な心を持つこと——これが、今週と先週のメッセージにおける重要なテーマでした。キリスト教の教えの目的は、私たちの心と魂の変革であり、それが敬虔な行動として表れるべきです。純粋な心、真摯な信仰、きよい良心から生まれる言葉と行動です。